会議の概要（議事録）

会議の名称	（番号） 1-38	令和７年度第３回　墨田区図書館運営協議会		
開催日時	令和８年２月 28 日（土）　午前 10 時 00 分から午前 11 時 50 分まで			
開催場所	墨田区立ひきふね図書館５階会議室			
出席者数	【委　員】10 名 日向　良和（会長）、今井　福司（副会長）、松塚　智加子、 河野　敏也、金　豊子、矢島　真理子、齊藤　宮子、津村　しづ恵、 森　恵子、口中　常嘉 【事務局】 ひきふね図書館長、ひきふね図書館次長、ひきふね図書館担当職員			
会議の公開（傍聴）	公開（傍聴できる）　部分公開（部分傍聴できる） 非公開（傍聴できない）		傍聴者数	0 人
議事	議事第１　「今期（令和６・７年度）の返り」 議事第２　「次期（令和８・９年度）への引継事項 議事第３　その他			
配付資料	・次第 ・資料１　今期（令和６・７年度）２年間を振り返っての感想 ・資料２　次期（令和８・９年度）に引き継ぎたい事項			
会議概要	・２年間での委員のつながりについて ・引継ぎ事項の内容確認及び２年間の感想			
所管課	ひきふね図書館（電話：5655-2350）			

議事第１「今期(令和６・７年度)の振り返り」及び第２「次期(令和８・９)年度への引継事項

事務局
資料 1、2 について委員名は記載していないこと。資料 2 は要旨として簡略にまとめ、同一意見を集約したものには件数の記載があることを説明。
引き継ぎたい事項の補足として、(4) のア。指定管理館（緑・立花・八広図書館）の館長のあり方についてひきふね図書館では指定管理者とは協定を結んでおり、「リーダーシップ及び図書館経営能力を有する者を配置すること」という形で館長は指定している。民間のノウハウの活用が指定管理者制度の趣旨の一つであるため意見があったことを伝えることは可能だが、配置転換等の指定は難しいと考えている。また、(4) のイ、ひきふね図書館駐輪場の拡大について。駐輪場という物理的なスペースの確保が必要であるため、難しい旨を説明。
日向会長
運営協議会に関すること、運営協議会の議事進行や、来期以降の委員のかかわり方の部分で、会議の日程調整がうまく合わず欠席が多くて貢献できなかったとの意見については、会議日程調整時に、できる限り多くの方が参加できる日程を選んでいかなければいけない。
子ども読書の推進計画策定では会議の回数が普段の 2 倍あり大変だったが、墨田区の子ども読書活動を総括的に知ることができた。また、関わる人の層の広さ、家庭から大人、公共まで一体となって計画を進める形で考えることができた。子ども読書活動推進計画を契機に改めて関わりが深くなったと思っている。次期に伝える内容では、「ちゃんとやっているか確認しないと」との引継ぎが出ている。（会議前に）口中委員が言っていたが、つながりが出来て新しいことができ、広がりもできたとお聞きした。たまたま森委員と学校で、ということで、ご紹介いただきたい。
森委員
言問小学校では、毎年 12 月のクリスマス頃に朗読コンサートというものをピアノとバイオリンでやっており、今年度は音楽の先生がバイオリンを弾けるということで、先生に演奏いただいた。低学年・高学年と分かれて、私たちは朗読をし、先生方がそこに音楽を添えるという形で子どもたちに聴かせ、最後にクラシックを弾いてくださった。（口中委員に）お声をかけたら来てくださったので、感想を伺いたい。
口中委員
凄く良かった。生のバイオリンとピアノ演奏で、始めにエルガーの「愛の挨

拶」の演奏があり、それから朗読が始まったが、すごくいいタイミングで短い音楽を入れており、子どもたちも関心を持って観ていた様子で、ためになった。ぜひ言問小学校だけでなく、ひきふね図書館でもやってもらったらいいんじゃないかと思った。

日向会長

各団体の代表で来られている方もいると思う。自分の団体と他の団体を結び付けるきっかけになってほしいと思うので、つながりを作っていく機会になったと思う。

口中委員

もう一つ、私の友人でメダカの研究をしている大学教授がおり、曳舟小学校・旧曳舟中学校出身の方で、松塚校長先生にご紹介させていただき、曳舟小学校の理科の授業にも興味を持たれて、メダカの授業を小学5年生に3回（各クラス1回）やっていただいた。ご本人も喜んでおり、私も感謝している。

松塚委員

ありがとうございます。口中さんにご紹介いただいた先生には、メダカの授業を5年生で1クラスずつ1時間ずつやっていただいた。また、普段の理科の実験で例えば「火を使う」あるいは「お湯を使う」など、危険を伴うものについて、ご都合のつく日はボランティアで見守りにおいでいただき、大変助かっている。もう1件、「点訳きつつき」さんに出前授業ということで、これも5年生に点訳をやっていただいたので、続きを（齊藤委員から）お話いただければと思う。大変感謝している。それから、日向会長にも墨田区立小学校教育研究部図書館部の研修に一度講師としてお越しいただいた。区内の小学校の図書館担当の教員で関心のある教員約20名に対しまして日向先生からご講義を頂戴し、どうもありがとうございました。また、ひきふね図書館には、低学年がお邪魔しているという状況で、大変輪が広がったということで感謝申し上げます。

日向委員

山梨県都留市のコミュニティスクールの委員をやっているが、そこの課題が「どうやって地域と学校の教育を結び付けるか、学校の運営に協力していただくか」というきっかけ作りが、なかなか難しいということだった。小学生が初めてミシンを使うときに家庭科の先生1人では大変なので、ウチの大学（都留文科大学）の家庭科の先生とゼミ生がお手伝いとして入ったというものがある。図書館運営協議会はそういう会ではないが、地域のつながりを作るという意味では、今回つながりが出来たというのはすごくいいことだと思っている。

松塚委員

もう1件、横井委員にも出前授業をしていただいた。教員が別ルートでお願い

したもので、「図書館運営協議会にお越しになっていますよね。」と後付けのような形であった。

日向会長

図書館運営協議会の活動とは違うが、この機会に情報の共有をした。

次に資料２をご覧いただきたい。おそらくこのメンバーの多くが来期は別の方になる。引き続きの方も、入れ替わる方もいるので、来期の協議会に引き継ぎたい事項を皆様の意見を基にまとめていただいた。まず、運営協議会のあり方について、委員の役割や目標を明確化ということで、昨年は子ども読書活動推進計画の策定という明確な目標があったので、我々も専門分野や知識で関わることができたが、普段は、図書館の方からご報告いただき、詳しくない分野のことは「あぁ、そんなこともやっているんですね」で終わってしまい、運営協議会が何をする場なのか分かりにくい。「住民目線でご意見をいただく」というのが趣旨ではあるが、なかなか「私は何をすればいいのか」が自分の分野とあまり関係がないと、目標が明確にならないのかと思う。協議会としての役割ということで、「住民の意見を図書館側に伝える」という明確な目標について最初の１回目にお伝えする必要があると思う。また、時間の都合もあり、各館の、特に指定管理館の行っている取組をご報告いただく時間が取れず、資料を見るのみで細かな説明が頂けなかったかと思う。これは運営の問題かと思う。活動報告をきちんとし、ひきふね図書館だけでなく、各館の図書館サービス自体は指定管理の方がやっていると報告を受け、それに対して意見を言うというのは必要な部分かと思うので、各館のサービスの説明のやり方の例として、活動報告を事前に分かりやすくまとめていただき、それを見た上で会議に来て、ここでは質疑や追加の説明をいただくなど時間を節約しながら、きちんと意見が言える場になった方が良かった。ア、イについては協議会のあり方として来期につなげたい。これ以外に何かお気づきの点はあるか。

数字などで意味の分からない場所は積極的に質問し「この数字ってどういう意味を持つんですか」、「このサービスって何なんですか」、「誰のためにやっているんですか」など、名前だけでは誰が対象者でどんな役割を果たしているか、分からない点はぜひ質問をいただければと思うが、そういう点はもっと議論があっても良かったと思う。協議会のあり方２つは次期に引き継ぐ。

子ども読書活動推進計画については、多い意見としては、決めた計画が実質的に子どもの読書推進に役立っているか、効果が出ているかを、ちゃんと点検していく必要がある。住民として重要なポイントで計画を作り、「あとは区にお任せ」や「指定管理のサービスにお任せ」というのはよくない。自分たちが決めた計画で、今度は実施をする側にも立ち、チェックしていく側にも立っていかないといけないので、点検する。実際に子ども読書活動推進に関わる方もこ

の場にいると思うので、現場の意見も踏まえ、定期的な点検が必要になってくる。これは、5年間の計画なので、それぞれの期ごとにご報告いただき意見を言っていくことが必要になる。まず、この点は皆様もご同意でよろしいか。
（反対無し）
実際に主体となって関わる方もそうでない方も、口中委員と森委員のように連携することで読書に関わるということもあると思うので積極的に地域全体でやっていくということが非常に重要だと思う。他の団体への声掛けや人と人をつなげることなどをぜひ積極的にやっていただきたい。また、子ども司書は新しい取組なので、確認していきたい。小学校図書館司書の担当日数の拡大は同様の意見が1件ということで、学校図書館が毎日開いているかというのは結構重要なポイントで、その上で学校司書や図書室の先生を配置していくことが重要である。区の予算が必要になるため難しいが、区の方に「ニーズがあります」、「本来は配置しないといけませんよ」と言い続けていくことが重要だと思う。館長を通じて「小学校の司書の日数の拡大は必要だということを協議会で検討した」と関係部署に伝えていただきたい。また、色々な企画で「子どもたちが自発的に学んでいく、主体的に学んでいくこと」が学校教育の目標になっているのでそういった取組も記録し、墨田区は調べる学習コンクールの活動が盛んなので記録を学校や図書館で残していただき次の学習につなげ、興味を持った子どもが参考に出来るような資料を残していくなどの活動が重要なのかと思う。これも子ども読書活動推進計画の中でもやっていただきたい。また、指定管理者にも「要望をお伝えします」で終わってしまうこともあると思うが、協議会では提案をできる限り実現できる環境整備を要望していきたいと考えている。次に、新規事業や既存事業について、最近始まった電子図書館や、国を挙げて力を入れている読書バリアフリーなどは拡充していく。事例などは私や今井委員がご紹介できるので、真似できるところは真似していくことが必要になってくると思う。墨田区の電子書籍では読み放題のサービスがよく使われていると聞くが、これは墨田区だけではなく、どこの地域でも大体共通している。自治体によっては、子どものIDでしか読めないサービスが、全サービスは難しいかもしれないが、重点を置いたサービスについてお金をかけていく。今のところ、子どもの読み放題サービスはお金をかけると結構読む方がいる、実際に読まれているということは分かる。また、地域の書店振興という点で、書店を守っていきましょうという動きもあるので、地域の書店さんとの連携を広げていっていただきたい。また、新しい技術の活用によるサービスの拡充というと、図書館界はAIが流行っている。AIを使って自動的に質問に答えられるものや、本の紹介を24時間365日AIができないかなど。実際に区で利用できるレベルにはなっていないようだが、新しいサービスや考え方が出てくると

思うので、注意していく必要がある。本の紹介は意外とAIができる。「こんな本ありますか」と相談すると図書館の目録の中から調べ、「こんな本がいいんじゃないですか」と紹介してくれる。一番いい点は夜中でも、図書館が開いていなくても聞ける。ひきふね図書館の2階カウンターは常に人がいて忙しそうだが、そういったときでもAIなら聞けるという利点がある。読書バリアフリーの推進では新しい電子技術を使った読書バリアフリーというのが注目されていて、「家から出なくても本が読める」や「色々な感覚が難しい方でも本が読める」ということで、AIがある程度本を要約して分かりやすく説明してくれるなど、色々な使い方があると思うが、これは長期的な研究として、協議会で何かするというよりは、図書館の方でも研究を続けていただきたい。必要があれば、予算化をするなど。まずは、電子書籍サービスが始まり、読書バリアフリーの推進が重要で、墨田区は他区に比べて、先進的で、齊藤委員や金委員のボランティア活動の成果だと思うが、非常にボランティアの活動も活発だと思うので、広げていただいて、次世代に伝えていくということが重要となる。例えば、中学生の生徒など、先ほど松塚委員から話のあった、点字の点訳体験も小学校より上の方にもつなげていっていただき、将来的にはボランティアに合流していただくなど、つなげていただけたらと思う。そこを公共図書館が間に立っていただけるといい。その他ということで、先ほど（指定管理館の館長について）管理的にも制度的にも要望は出来るが、確実に出来るかの確約はできないということだったが、要望はしていただきたい。指定管理業者にこういうご意見が出たということを伝えていただき、重要なことであれば、次期の指定管理業者選定の際に条件を付ける場合もある。あまり細かい条件は付けられないが、重要な要件については指定管理者の協定の中に入れていくことができると思う。現状では、「こういった意見がありました」とぜひお伝えいただきたい。駐輪場の拡大も、他の利用者からも意見が出ているのではないかと思う。駅が近いのでただ乗りされると困る、放置されると困るなど心配もあるのかもしれないが、そういうご意見もあったなということで。また、ボランティアの活躍というのが、「本に関わる本ボランティアの活躍」というのはボランティアを増やそうというか拡充という要望なのか。
本に関わる方、子ども読書に関わる方、読書バリアフリーに関わる方を増やしていこうというのは是非進めていただきたい、次世代への継承がどこの地域にも言えるようだ。

矢島委員

私が書いた趣旨は、ブックスタートで本をもらい、本と子どもと保護者のつながりができるが、そこで終わってしまう。その後、小学校に入り、ボランティアがあれば立候補で活動もできるが、間が空くことで子どもと図書館との関わ

りが薄くなってしまう。小学校の読み聞かせボランティアの責任者を 10 年程やっているが、1 年生の保護者から入る方が減り、子どもが大きくなり時間がある方に来ていただいている状況なので、世代の交代が進まない。ブックトークのボランティアの責任者もやっているが、小学校で読み聞かせボランティアを 6 年間やった後に、もう少し本に関わりたいというお母さんが集まってできたのがブックトークの会で、今は子どもたちが卒業したらボランティアを続ける方がほとんどいなくなってしまい、ブックトークには人が集まらなくなっている。若いお母さんはお仕事があり、平日に活動できる（専業）主婦みたいな層は、いなくなっている。ブックトークは本当に細々とやっているが、日向会長がおっしゃるように若いボランティアが増えない。要するに、赤ちゃんの時に頑張って「子どもに絵本を読ませよう」と思って地域の図書館と縁が出来ても、途切れてしまってもったいないので、そこをつなげていくようなものが必要だと思う。例えばホームページで「赤ちゃんにどのような本を読ませたらよいかを検索できる」とか、「新しく親になった人や保育者が知りたい情報を得られるように、まずは地域の図書館に関わってもらい、おはなし会に来てもらう」とか、そういうことから始めていただきたい。おはなし会のボランティアも、子育てが一段落した人が中心になっていて、「これではいけないんじゃないか」と思う。子どもと本についてボランティアとして墨田区で 15 年関わらせていただいているが、本当に今子育てに悩んでいる現役世代の意見をくみ取っていけているのかと気になっている。本当に色々な世代から男性か女性かに関わらず、意見をくみ取ってもらえているのかなと、本当に意見のある人が来ているのかなと感じている。ボランティアの世代交代というか、新しい人に入ってもらいたい。赤ちゃんの時に絵本を配るだけでなく、墨田区で今子育てをしている現役の保護者世代につなげてもらえないかと感じている。ブックトークの会としても活動の幅を広げ、児童館等にお邪魔して絵本の紹介などしていきたいと考えているが、今はまだ具体的に何ができるのか検討している段階。

森委員

同じ意見で、4、50 代の保護者に引き継いでいきたいと思うが、仕事をしている。毎週火曜日に読み聞かせをしているが、8 時 20 分に学校に集まることが難しく、やはり私たち世代が主になってしまう。いつか、引き継いでいかないといけないので、会議に出て、もっと若い保護者の意見があるのではないかと感じる。現役の方々のご意見をどうか吸い上げていっていただけないか思う。

矢島委員

皆さん、色々な経験をされているから分かることもあるのは理解しているが、危機を感じている。読み聞かせの世代交代をしたいと思っている。

齊藤委員

ボランティアの活躍というと、読書バリアフリーで、音訳や点訳など色々とやられているが、今、読書障害のある方と絵本などを一緒に読むというボランティア活動が、どこかの図書館で行われている。単に対面で音訳するような形ではなく一緒に読む。話をしたり、一緒に読んだりすることで理解できるという障害のある方がいらして、そういう活動を始めているという趣旨のことを聞いたので、ひきふね図書館でもぜひ「一緒に読む」ボランティアの養成講座をやっていただきたい。AI とかでできるものでもないので、プライバシーの問題もあるかもしれないが、図書館の職員がやるのは難しいので、ボランティアを養成していただくと、また新しくバリアが 1 個崩れるかなと思う。読み聞かせをやっている方で興味がある方も一緒に読んでいただくことで「こういうことが分からない」と気になる点も共有できるので、良いと思う。活動が広がれば小学生でもできるかもしれないし、中学・高校でもできるかもしれないので広げていくということも含めて次回に引き継いで、ひきふね図書館が先頭に立っていただきたい。それと、ひきふね図書館でも点字入門講座を夏休みにやらせていただいている。2、3 年前からすみだボランティアセンターで「夏ボランティア体験（以下「夏ボラ」という。)」という企画をやっており、点訳の基本講座の企画をするので、同時にやれないかと（ひきふね図書館の）障害者サービスの担当者と話をしている。図書館は大人の方が多いが、夏ボラは、「夏休みにボランティアをすること」が宿題になっているので、本や点訳に興味がある学生の申込みが多い。年によって変わるが、去年は高校生のボランティアが多く、絵本に点字を貼り付けてみようというのをやり、参加した高校生から、「面白いからもっとやってみたい」という感想もあった。ただ、高校生は、大学受験などもあるのでボランティアとして活動するには長い目で見ていかなければいけない。図書館でやるということでちょっと敷居が下がる。ボランティアセンターでボランティアをやるとなると敷居が上がるので、若い方には難しいが、ボランティアセンターの夏ボラなどと上手く連携していただくと、とりあえずの入口になるのかなと思い、計画している。読み聞かせは平日の昼間で大変だと思うが、点訳講座は夜の開催にしたので、仕事をしている方、若い方でもとりあえずは来てくださる。興味を持ってくださって「やってみたかったんです」という方が入りやすいので、夜の講座というのは図書館的には難しいかもしれないが、考えていただきたい。

日向会長

ボランティアの活躍というよりはボランティアの拡大・拡充というか、そういった文言に変えたほうがいい。活躍というと「活躍はしていただいています」となるので、活躍を広報する必要はある。「こういうことをやってもらっていますよ」と知ってもらうというのは必要。引継ぎ事項としては拡充という行政

用語で申し訳ないが、変更していただきたい。色々な機会として、あえて高校生限定でボランティア講座をやってみるなど。大人と一緒にやるとなると難しく、既存の会に入るというのは難しい。ブックトークや読み聞かせ以外で子どもの読書に関わる活動で新しく募集すると意外と若い方が来ることもある。都留市だと朗読は結構高齢の方で、読み聞かせは結構若い方で、読み聞かせ終わった方が何年かすると朗読に入る流れがある。そういう動きがあるので、間口を広げるという意味で拡充という書き方が引き継ぎやすい。

矢島委員

子ども司書の夏休みの講座に、ブックトークの時間を組み込んでもらって、来年度もやっていただく工夫はしている。

日向会長

そういう意図ということなので、書き換えを。

事務局

書き換えます。

日向会長

引継事項にこれを加えてほしいことなどはあるか。引継事項については、修正事項もあり、振り返りの部分についても修正があれば事務局に。項目を削除するというのは、一度認めたものなので出来かねるが、文字が違うなど、新しく変えてほしいということ、追加して欲しいなどもあれば事務局に伝えていただき、私の方に判断を任せていただくという形でよろしいか。基本的には、この振り返りと引継事項を来期の運営協議会の方に伝えるということで進めていきたい。非常に様々なご意見が出て嬉しく思う。その他、事務局から何かあるか。

事務局

資料１の通り、皆様からの感想はいただいているが、今期の開催が最後なので、一言ずつお言葉をいただければと思う。会長からよろしくお願いします。

日向会長

今期、拙い運営だったが、運営協議会のメンバーとしてご活躍いただきありがとうございました。子ども読書活動推進計画を委員一体となり、それぞれの立場でご意見をいただき、非常に充実した計画になったと思う。非常に厚く、墨田区は住民の方が図書館のサービスに関わっていて、これだけ子ども読書に色んなご意見があるのかと思った。墨田区の場合には積み重ねがあったんだと思う。今日で、協議会と図書館と縁が切れてしまう方がいらっしゃるかもしれないが、先ほど申し上げた地域と本をつなげたり、学校と地域をつなげたり、そんな役割を果たしていただけることを、協議会がきっかけであることを嬉しく思う。

今井副会長
子ども読書活動推進計画で皆様の意見をたくさん伺えて、学校教育の話も地域の話も盛り込めたことは一番良かった。学校の部分も盛り込めたので、素晴らしいことだと思う。私自身は図書館というのは、とても大切な選択肢を提示する場所だと思っている。何かを選ぼうと思ったときに「図書館もあるじゃないか」と言えるのはとても幸せな地域だと思うし、「こんな考え方もあるよ」「こういうやり方もあるよ」ということを、図書館の本が提供できると思う。障害者サービスの話も出たが、他のサービスから漏れ落ちてしまう人を図書館が受け止めてあげるような豊かさがあるといいと思う。墨田区のパスファインダーは子ども向けのパスファインダーを 100 個作って並べており、かなり積極的に取り組んでいて、維持するのは大変だと思うが、今後とも続けていただきたい。
津村委員
ありがとうございました。参加させていただいて、小学校の支援員や、調べる学習の相談員として、現場からの意見を言えたと思っており、他の活動をされている方のお話も聞けたので、素晴らしい経験をさせていただいた。私自身この会に参加したことによって、小学校にパスファインダーを全部貼り、図書室の掲示の部分を司書の方に借りてパスファインダーの説明をするなど、自分のエンジンをかける会でもありました。司書の方に来ていただくというのももっと増やしてほしいとも思っていますし、読み聞かせのボランティアの保護者の方もいっぱいいらして楽しそうで、それが、続けるモチベーションになるのかと思った。楽しく面白がってやれるものがあればいいなと、ここにきて一つ勉強させていただいた。ありがとうございました。
森委員
2 年間お世話になりました。ありがとうございます。私も色々な話を聞いて読み聞かせの中に取り入れていきたいと思ったことと、若い世代に引き継いでいきたい思いがあります。中学生に読み聞かせにをやらせてみたいという私の長年の希望で、週に 1 度でも、月に 1 度でもいいので中学生が小学生に読み聞かせをして欲しいというのが願いだった。本を選ぶこと、聞かせることで、色んなものを体験でき、いい勉強になると思った。若い人たちに関わっていくことで、いつかそれが繋がっていってくれるのではないかと思う。本を共通にしながら、色々なことが繋がっていくと良い。
口中委員
2 年間大変お世話になりまして、ありがとうございました。普段はあまり接することのない大学教授や小・中学校の校長先生やボランティアで活動されている方と接することができて大変勉強になった。また、この運営協議会を通して

朗読の会の素晴らしい活動に触れられ、曳舟小学校の中でメダカの授業をやっていただくこともでき、大変感謝している。また、ひきふね図書館を中心に、図書館の方が本当に献身的に頑張っているということが分かり、苦労されているというのが、一端だけでもよく分かった。これからもつながりの中で活動していければと思うが、大変貴重な2年間を送らせていただき感謝している。

河野委員

1年間ありがとうございました。去年から引き継ぎ、本当に、この1年間子どもと読書の関わりや図書館との関わり、本に対しての関わりというのを考えさせてもらった。墨田区立中学校研究部図書館部の方でも、中学生になると主体的に読書するという姿勢が出てきていているという声が聞こえてくる。また、図書館を使った調べる学習コンクールは審査員をやらせてもらい、小学校の方の上がってくる内容の方が、本当に図書館や本を使って調べているというのが凄いなと感じた。中学校になると、図書館研修部主催で10校のビブリオバトル大会をやっている。今年は本校の生徒が「アルジャーノンに花束を」を紹介し、チャンプ本になった。どの生徒も本を紹介する力が凄いと思った。本を読んでこれだけの発表をできる力が本当に素晴らしいと感じた。そういったところで、地域の方も審査員として関わっていただけるといいと思った。去年からSDGsに関わるブックトークの会をやろうという案があり、区内だけでなく、SDGsに関わる取組をしている本を紹介する、ブックトーク会をオンラインでやった。そこで、他区とのつながりができ、SDGsの取組やある中学校の図書館がどれくらい充実しているかなど見学に行った。そこで墨田区は探求的な学習が弱いように思っているので、図書を調べて、検索して、自分で論文を探すなどの必要性を感じた。小学校から続いてきた図書館を使った調べる学習コンクールの力を中学校で引き継いでいかなければと思った。ブックトークなどの機会も、一つアイデアとしていいと思うので来年も都内で広げていきたい。読み聞かせもオンラインを上手く使うと、小学校との連携もできると思う。ビブリオバトルも広げるのであれば、オンラインというのも一つの手なのかと思う。図書館も入っていただきたい。

松塚委員

2年間大変お世話になりまして、ありがとうございました。また、様々なところで、子どもたちの読書の推進にお力添えをいただきましてありがとうございます。私もこの会に参加させていただいて、様々な立場の方の活動の様子や想いに触れることができ本当に勉強になった。直接お聞きすることがないので、貴重な機会だった。また、昨年は計画づくりということで、自分自身も行政計画に関わっていたこともあり、計画づくりは事務局が一番大変な苦労をされていることを存じているところではあるが、事務局の方に土台作りをしていただ

き、よかったと思う。計画は作って終わりではなく、その計画の進捗や、補足しなければいけないところを次の協議会でやっていければいいと思う。人のつながりということでこの協議会を通して、色々な方とのつながりができて、色々な立場の方が参加されている良さなのではなかと思う。来年の一つ提案としては、ざっくばらんにお話しできる時間を作ると、人のつながりが広がるんじゃないかと思う。今、中学校の取組の紹介があったので、本校の取組を紹介したい。私は、ずっと新聞教育に関わっており、曳舟小は、東京都の NIE（新聞教育の推進校）ということで、新聞を活用した授業を進めている。各教科のねらいがあり、いかにいま社会で起きていることと、学校で勉強していることが連携している、繋がっているか、そういったところも含めて、新聞（一般紙）を活用して授業に取り入れている。新聞の朝刊を丸ごと与えて好きな記事を切り抜く、あるいは授業の中で「ごみ問題」をやるときに、ごみ問題の記事を探すなど。理科室に理科に関係する気象の関連記事を掲示するなどの取組を 1 年間やってきた。その成果として、東京新聞には毎週金曜日に「若者の声」という投書欄があり、そこに 12 月から 3 名採用された。若者の声を使って賛否を述べる、20 分間で 200 字を作るという授業をし、30 名ほどの 1 クラス全員が書けた。そこまで小学校で高めているので、中学生になって、あるいは大人になって、読書なり新聞活用なりで文字に親しみつつ自分の考えを作り出し、またそれを表現していって欲しい。その表現の仕方は音声であったり、書く文字での表現であったり、そういったところが小・中学校の基礎的な学力をつける大事なところかと思っている。引き続き学校も頑張っていくのでご支援をお願いしたい。

齊藤委員

図書館パートナーズの委員として出席していましたが、障害者サービスについて、言いたいことを言わせていただき、日向委員長を始め、図書館の方も温かく受け止めてくださり、感謝しかない。子ども読書活動推進計画では学校の方で取り入れて欲しいと言わせていただき、学校図書館の方の意見を入れていただいたので少しは貢献できたと思っている。全体的に色々とご意見聞けて、私自身も見識を広げることができた。特に文科系大学教授の先生方の意見のまとめ方など学習させていただいた。また、学校での読み聞かせなども、壁を壊すべく頑張っているんだと感じられた。2 年間ありがとうございました。

金委員

音訳ボランティアとしてやってきたが、軽い気持ちで引き受けしてしまい、後で「しまった」と思った。子どもとの世界とはまるで無縁の生活をしており、色々な方の色々なご意見や、資料をたくさんいただき、本当に勉強になりました。ボランティアまつりや、音訳の講座も毎年やっており、盛んだが、音訳に

興味を持ってもらおうと一生懸命やっている。講座を受けた方も、実際に興味は持ってくれるが、活動できる方はなかなかいない。音訳は決まりごとが多く、難しいが頑張って活動すると、読んでいるものから自分が今まで知らなかったことを知ることができて面白い。経済誌は今の時代のことを書いているし、用語も最近の横文字も多く、読み方一つ調べても色々なことが分かる。墨田区では年齢制限がないので、やらせていただいている。本当に勉強になった。ありがとうございました。

矢島委員

小学校の読み聞かせやブックトーク、昨年からほうかご図書室の支援員もやらせていただき、多方面で子どもと本と関わっている中でこの会に出させていただき、本当に図書館が色々なことをやっていると感じた。自分はボランティアとして頑張っている自覚があったが、現状や課題、目標など色々なことを考えて取り組まれているということが分かり、とても勉強になった。これからブックトークを盛り上げていかないといけないと思っており、実際に講座を開催したが、ブックトークの会の定例会への参加にはまだつながっていない。心が折れそうになることもあるが、今日会議に出席し、色々な方が色々な所でつながって、活動されていることが励みになった。また、自分の中では、若い保護者とのつながりをどこかで持ちたいと思っており、お話会も来年度はちゃんと出させていただいていこうと思っている。ブックトークの趣旨とは少しずれるが、若い保護者の方にベビー向けの本のブックトークを作って児童館でやらせていただけないかなど相談している。ブックトークを教えに行くことなどで裾野を広げていき、活動できるメンバーが少ないが、また頑張りたいと思う。本当に2年間勉強させていただきありがとうございました。

事務局

最後に、本日も活発にご意見をいただきありがとうございます。貴重なご意見を賜り、それぞれの委員の方の専門的な知識や図書館への思い、地域への深い愛情がこめられた助言の数々は私ども運営にとって大きな財産となっている。運営協議会が様々なつながりを生んでいるということも感じ、とても嬉しく思う。特に、第5次子ども読書活動推進計画の策定においては、6回の協議会で地域特性などを考慮し、子どもたちの未来に思いを馳せながら熱い議論をいただいたと伺っている。できあがった計画を拝見し、手作りならではの思いのこもった計画になっていると感じられ、この場をお借りして改めて感謝申し上げる。また、計画を実現していく責任を強く感じている。図書館を取り巻く情勢や利用者ニーズは様々に変化していくがこれからも職員一同、関係機関や地域の方々と協力して、今回いただいたご意見や引継事項に真摯に取り組んでいくので、引き続きご支援をいただきたい。2年間にわたり委員をお勤めいただき

誠にありがとうございました。

日向委員

以上をもって令和 7 年度第 3 回の図書館運営協議会は閉会とする。